

令和6年度 特色ある道德教育推進校
市原市立国分寺台中学校

研究主題

優しく、思いやりがあり、望ましい人間関係を築くことができる生徒の育成
～自分のこととして主体的に「考え、議論する」道德の学習を目指して～

取組1 「考え、議論する」話し合いを目指した工夫

工夫1 考え、議論するために

- ・ 特別活動や総合的な学習の時間などを活用し、1日1つの問いかけを出し、生徒に考え、議論させる。

工夫2 話し合いの仕方を工夫

- ・ グループでの話し合いを円滑にするために、流れをまとめた「話し合いカード」を活用する。

話し合いのときの約束

- ・ 3～5人グループ。 ・ 話し合いの時間は3～5分目安。
- ・ 司会者は「司会カード」を参考に進める。
- ・ 司会者の指示に従って順番に話す。
- ・ 話し手は、自分の考えをグループに伝える。
- ・ 聞き手は、自分の考えと比べながら最後まで耳をかたむける。よくわからなかったら質問をする。
- ・ 話し合い後、司会者はグループで出た意見を発表する。

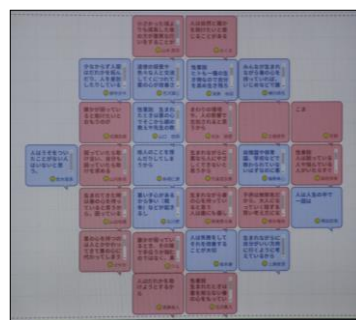
司会カード

1. これから話し合いを始めます。
まず〇〇さん、自分の考えを発表してください。
2. 話し手に
「もう少し詳しく教えてください。」
「なぜ、そう思ったのですか？」
「〇〇ということですか？」
聞き手に
「〇〇さんの考えを聞いて、どう思いましたか？」
3. 「ほかに意見や質問があれば、お願いします。」
「最後に、司会者が話します。」
「私はこのように考えましたが、みなさんはどう思いますか？」

取組2 ICTを活用した共有・議論の充実

工夫1 共有の仕方を工夫

- ・ 「ふきだしくん」というインターネット上のツールを活用し、生徒がGIGAタブレットで自分の意見を記入、一斉に可視化することで個人の意見を共有する。
- ・ GIGAタブレットからxSynchを活用し、電子黒板にグループの意見を写すことで意見を共有する。



工夫2 共有して考え、議論する



- ・ 共有した意見をもとに、自分と異なる考えを知り、考えを深めたり、広げたりする。
- ・ 同じような考えをもつ生徒の話聞くことで、考えを広げていく。
- ・ グループでの発表を通して多様な意見に触れた上で、考えを深める。

取組3 学校教育全体を通して

- ・学校の立地的な面からゴミのポイ捨てが見られることについて生徒に問題提起し、自分の考えを付箋に書いて貼っていく場を設ける。
- ・階段踊り場や廊下等に書道部・美術部の生徒の手で作成した心に響く詩や歌詞の一部を掲示したり、行事後や節目の時期に自分の思いを文字にして、全校生徒の目に触れやすい場所に掲示したりする。
- ・市原市平和のつどい実行委員会による「原爆の絵展」を受けた全校共通道徳授業を展開。

ゴミのポイ捨てについて考える掲示物



ゴミのポイ捨てについて、生徒が考えたことを付箋に書いて掲示

書道部による歌詞の掲示物



書道部が書いた心に響く歌詞の一部を掲示

千羽鶴の作成の様子



「原爆の絵展」を受けた全校共通道徳後に、千羽鶴を作成

主な成果と課題

- 職員の道徳に対する意識が向上し、指導力向上、職員の協力体制の整備につながった。
- 言語活動を重視することで、生徒の主体的な学びを促すことができた。また、生徒の道徳的思考力が向上した。
- 授業改善の取り組みを通して、道徳だけでなく他の授業や学級討議でも活発な意見交換や議論ができるようになった。
- 話し合いの場で他者の意見をメモする等の対応力の差が学年の違いにより見られたので、「記録をとること」を継続して指導する必要がある。
- ICTの効果的活用については、これからさらに実践していく中で、どのような方法が適切なのかを考えていく必要がある。
- 授業の中で、生徒たちの活発な意見を「まとめあげる時間」の確保が課題である。

第1学年C組 道徳科学習指導案

日 時 令和6年11月7日(木)

1 主題名 『生命を尊重する』 【D-19 生命の尊さ】

教材名 「捨てられた悲しみ」(出典 光村図書)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする内容項目について(ねらいとする価値について)

本主題は、生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重することについて考える内容項目である。

人間はもとより、すべての生きとし生けるものの命は尊いものである。そのいっぽうで、人間は自己の利益のために他者を迫害したり、命を脅かしたりと他者の命を軽視した行為を繰り返してきた。そのような社会の中で、自分自身の命を大切にし、他者の命も同じように尊重し、慈しむべきものであることに気づかせたい。

(2) 生徒の実態について(男子14名、女子17名 計31名)

本学級の生徒は、まだ幼さが残る素直な生徒が多い。自分の思うことを上手に言葉で伝えられなかったり、考えがうまく相手に伝えられなかったりする生徒もいる。比較的男女仲は良く、協力して学習や行事に取り組むことができる。

また、提示された課題に対して、何をすればよいのかわからず、うまく行動に移すことができないこともある。理解できると発言も活発なのだが、理解できないと発言がいつも同じ生徒になりがちである。そこで、授業や学級活動を行う際、常に心がけていることが、「口で言う(聴覚)」「文章にする(言語)」「提示する(視覚)」の3点である。

(3) 教材について

本教材は、犬猫に関する調査とペット飼育についての啓発ポスターを押さえつつ、犬猫を収容するセンターで働くこずえさんと出会った筆者が、捨てられた犬や猫の殺処分の現状を知り、こずえさんの苦悩、動物たちへの思いを記した文章を読み、殺処分の現状から、命の重さについて考えることのできる教材である。

(4) 指導観

身近にある命の存在について考えることは、自分を含め、あらゆる命を大切にしようという態度の育成につながる。

全国の保健所で殺処分される犬や猫の数と、保健所に持ち込む理由からうかがえる人間の身勝手さに、生徒は憤りや怒りを感じるだろう。そして、殺処分される犬や猫を最後まで世話する女性の行動を通して、身近な動物との関わり方やこのような動物を減らしていくために自分ができることについて考えを深めていきたい。

3 本時の指導(1/1)

(1) ねらい

生命を尊ぶことについて考えさせ、生き物の命を大切にしていこうとする心情を育てる。

(2) 展開

過程・時配	学習活動 ㊟中心発問 ○発問 ・予想される生徒の反応	◆指導上の留意点(UDの視点もふくむ) ☆評価(方法) ㊟個別の支援	資料
導入 5分	1. アンケートの結果を知らせ、A C ジャパンのCMを見て考える	◆どういうことを呼びかけているのか考えながら 映像を見るよう伝える。	電子黒板
展開① 15分	2. 資料から考える ○資料1と資料2を見てあなたはどんなこ とを思いましたか。 今日のテーマ 命の尊さについて考えよう ○資料3にある「飼わないことも愛情です 」にはどんな思いが込められているでし ょう。	◆電子黒板で資料1と資料2を提示しから 気づくことや感想を共有する。 ◆資料3を基にして考えさせる。一時的に愛情 を抱いただけで、後先考えず動物を飼うこと は、かえって動物を不幸にする愛情のない行 為であることを理解させる。	資料1 資料2 掲示
展開② 25分	㊟こずえさんは、どんな思いで残り短い 命の犬や猫の世話をしているのだろう。 3. 個人で考える ・自分の考えをノートにまとめる 4. グループで考えを話し合う 〈もとの飼い主への思い〉 〈犬猫に対する思い〉 〈道徳的価値を踏まえて〉 5. クラスで考えを共有する 6. ノートに記入する	◆まずは各自でノートに書き出し、 自分の考えを自分の言葉で表現 する時間を確保する。 ◆司会者を中心にお互いの考えを 発表し、それぞれの考えを共有 し 深める。 ☆資料、文章など多様な側面から考 えたことを基に話し合いをし、さ まざまな立場や視点から、生命に 対する考えを深めようとしている か。【発表・ノート】 ◆授業で感じたことや学んだこと を記入するよう促す。 ☆普段の生活の中で、自分が生き 物の生命についてどのように捉 え、 行動しているかを振り返り、生命について自分のこととして 考えよう としているか。【発表・ノート】	資料3
終末 5分			

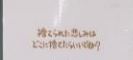
(3) 板書

課題

② 捨てられた悲しみ

今日のテーマ

命の尊さについて考えよう



もとの飼い主への思い

少しでもなら飼われてほしい
いいのに...

犬や猫に対する思い

少しでも楽になてほしい
残り少ない命なら
最期のお世やに
幸せに
少しでも思いをわけて
ほしい。悲しい...が
へうしたい。

命というものに対しての思い

短い命でも大切に
長く生きてほしい
寂びべき存在
悔しいのかな。そうに
お世話をしたい。

自分勝手なこともあるけど
したな...物もある

責任はかな...は飼われる...

処分されようが仕方がない
かわいそう

遊び道具ではない

ペットはおもちゃではなく命がある

無理に飼われるのではない

ペットにして平和に自分らしく生きられる

神様からもらった命は1つしかない。

自分・他人・動物・植物 どれも命が
さっじょうで大切にする。

〔資料1〕

全国の保健所などによる
引き取り数と殺処分数 (2018年度、環境省)

	引き取り数	殺処分数
犬	35,535	7,687(約22%)
猫	56,404	30,757(約55%)

(%)は、引き取り数に対する殺処分数の割合)

【資料2】

人々が犬や猫を保健所に持ち込む理由の例
(2014年度、調査書)

- ・引っこして飼えなくなった。
- ・家族にアレルギー症状が出た。
- ・もともと飼っていたペットと相性が合わなかった。
- ・ペットが患っていたよりも大きくなった。
- ・ペットの世が毎日で重くなりました。
- ・仕事の忙しくなった。
- ・子供が生まれて、ペットの世話ができなくなった。
- ・近所から苦情がきた。
- ・高齢になりペットの介護が重い負担になった。
- ・自分が病気になり、世話ができなくなった。
- ・飼いがまなくなった。